

関西支部シニア会活動報告

行事名	第11回 特徴ある技術を有する企業見学会
回次	
開催日時	2017年1月31日(火) 15:00~17:20
場所	シスメックス(株) テクノパーク
加人数	シニア会 28名
行程	会社概要および製品、グローバル化戦略について説明 「シスメックスのビジネスモデル」の講演 企業経営、製造技術、製品についての質疑応答
内容と感想	<p>会社の概要説明によると、前身は東亜特殊電気(株)が製造する自動血球計測装置の販売会社として1968年に設立され、その後シスメックス(Systematical Medics X)を制定し今日に至っている。主な製品は、健康診断、病気の経過観察、病気の予防に欠かせない血球計数検査、血液凝固検査、免疫血清検査、尿検査、POC(Point of Care)検査等の検体検査機器(血液、尿などを調べる機器。レントゲン、CT、MRI、超音波、細胞観察等は生体検査機器と呼ばれている)である。ドイツのシーメンス社、スイスのロッシュ社をはじめ、名だたる大企業を相手にしながら検査種目別機器販売台数で、多くの機種が1位を守っている。その秘訣は、単に機器を販売するのではなく検査に必要な検体検査試薬、検査情報システム、サービス&サポートを供給することとで現在の地位を築き、急成長している。売上高の内容を見ても機器の割合は約3割で、残りは試薬、サービス・サポートとなっている。ビジネスのやり方としては、機器を販売して消耗品とサービスで利益を出すプリンター販売によく似ていると感じた。現在では世界の190か国以上に製品を輸出し、海外売上が80%に達している。自社の技術を守るために製品を輸出する国での特許を取得していること、検査機器の製品開発、製造の拠点は日本に置くというこだわりを持っている。今後は予防医療、個別化医療の重要性が増すばかりか、遺伝子・リンパ節処理装置などの高度な検査装置が発達する環境下で、2018年には売上高3000億円、利益率20%、売上高の10%を研究開発費に投資するというビジョンを持っている。検体検査技術は日々進化しており、近い将来生体検査をしなくても血液、尿で多くの病気が明らかにできる時代がやってくるような気がした。売上高、営業利益、総資産、従業員数の総てが右肩上がりの業績を残しており、会社の勢いを感じた。活発な質疑応答がなされ、時間が多少オーバーしたが無事終了した。見学会をアレンジしていただいた大山康浩部長、説明をしていただいた臼木大介課長に厚くお礼を申し上げる。</p>



写真1 会社の概要説明に耳を傾ける参加者



写真2 シスメックスにお礼の挨拶をされる浅田シニア会会長



写真3 参加者集合写真